Pioneer

ステレオプリメインアンプ

A-D5X

取扱説明書

このたびは、パイオニアの製品をお買い求めいただきましてまことにありがとうございます。この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。特に本書および別冊の「安全上のご注意」は必ずお読みください。なお、「取扱説明書」および「安全上のご注意」は、「保証書」「ご相談窓口・修理窓口のご案内」と一緒に必ず保管してください。

安全上のご注意 付属の「安全上のご注意」もお読みください

安全に正しくお使いいただくために

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

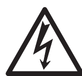


この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⃠記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

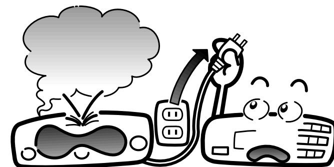


〔異常時の処置〕



プラグを抜け

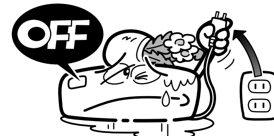
● 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。





プラグを抜け

● 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。





プラグを抜け

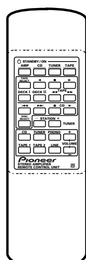
● 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



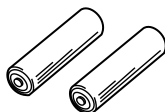
お使いになる前に

付属品の確認

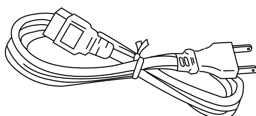
■ リモコン 1



■ 単 3 形乾電池(AA/R6P) 2



■ 電源コード .... 1 本



■ 取扱説明書(本書)

■ 保証書

■ 安全上のご注意

■ ご相談窓口・修理窓口のご案内

お使いになる前に

特 長

■制振スタビライザー

当社DVDオーディオ対応のパワーアンプM-AX10でも採用した無垢真鍮材によるソリッドブラススタビライザーをはじめ、さらなるシャーシの高剛性と無共振化をはかるための制振スタビライザー構造を採用し、高音質を実現しています。

■ダイレクトエナジー MOS アンプ回路搭載

高性能パワー素子、HEX POWER MOS FET を採用。動作効率が高いため、パワーリニアリティーが良く、低負荷ドライブ能力が向上しています。

■スーパーリングトロイダルトランス

低損失でリケージフラックスが小さいため、パワフルでクリーンな電源供給を可能にしています。

■ワイドレンジリニアサーキット

電流帰還型回路による1段増幅で、電流リニアリティーに優れ出力インピーダンスが低域から高域までフラットであるため、確かなスピーカードライブを実現しています。

■ OFC 極太電源コード

電源極性の管理とあいまって音場豊かな再生音が得られます。

■バナナプラグ対応スピーカーターミナル

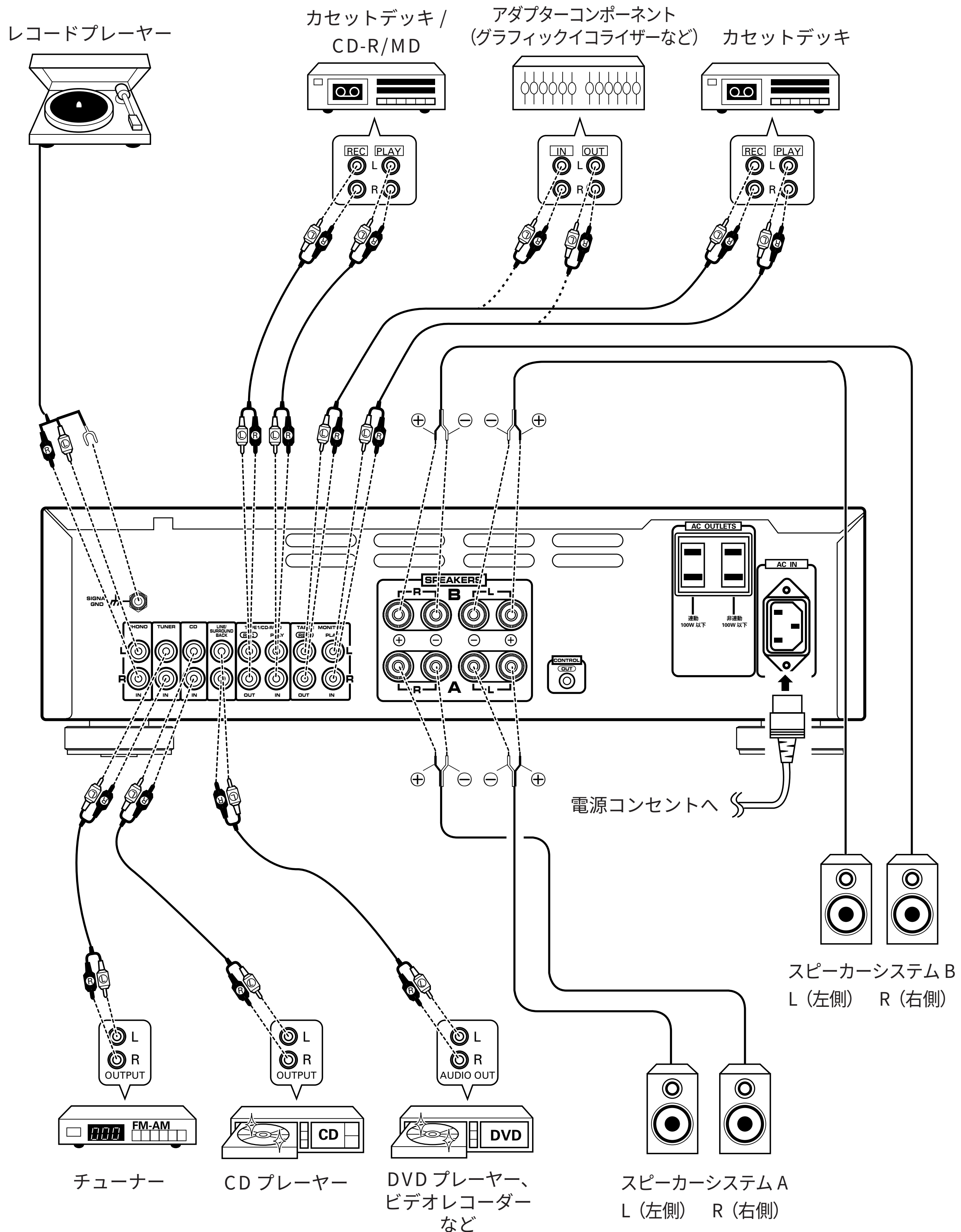
様々な高品質スピーカーケーブルを容易でかつ確実に接続可能なバナナプラグ対応のスピーカー端子を用意しました。

目次

接続のしかた

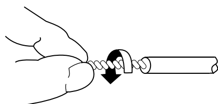
接続図

機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には、必ず電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

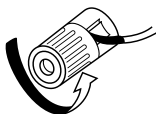


スピーカーコードのつなぎかた

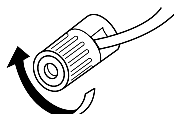
1. ビニールをはがして先端をそろえる。



2. つまみをゆるめ、コードを端子の穴に差し込む。



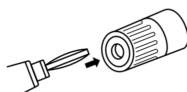
3. つまみを締め付けてコードを固定する。



ご注意
端子からコードの芯線がはみ出して、他の芯線と触れないようにしてください。芯線どうしが触れていると、機器を故障させる恐れがあります。

バナナプラグ付スピーカーコードの場合

つまみを締め付けたあと、プラグの先端を端子の穴に差し込む。

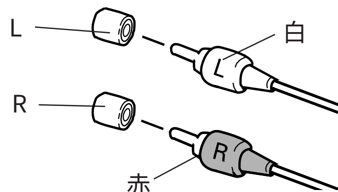


スピーカーインピーダンスについて

スピーカーA、B端子のいずれか片方のみを使用する時は、インピーダンスが4 Ω 〜16 Ω のものを使用してください。また、A、B同時に接続するときはインピーダンスが8 Ω〜32 Ωのものを使用してください。スピーカーインピーダンスの値については、接続するスピーカーの取扱説明書をご覧ください。

入力・出力コードのつなぎかた

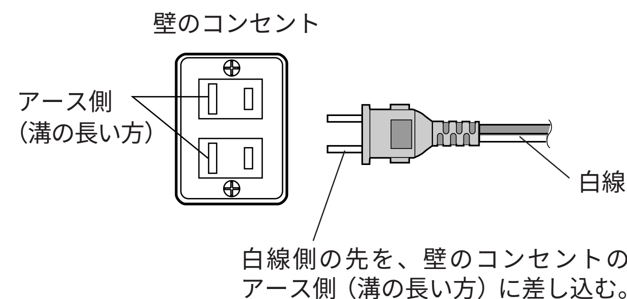
白いプラグはL側、赤いプラグはR側につなぎます。必ず、奥まで差し込んでください。



ご注意
- 音質向上のため、本機のPHONO入力端子にはショートピンプラグ（2個）が付いています。レコードプレーヤーを接続する際には、ショートピンプラグを引き抜いてから、入力・出力コードをつないでご使用ください。
- はずしたショートピンプラグは手元に保管し、オーディオ出力端子には取り付けないでください。
- PHONO入力端子に入力・出力コードを接続しないときは、音質向上のため、ショートピンプラグを取り付けてください。

電源コードのつなぎかた

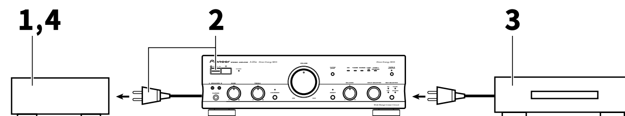
家庭用コンセントの交流電源には極性があり、アース側は大地につながれています。
本機では、この極性を音質向上のために利用しています。



ご注意
- 環境によっては、電源コードをアース側と反対に接続した方が音質的に良い場合がありますので、お客様ご自身で音質をご確認の上、接続してください。
- 本機の電源コードは着脱式になっております。付属（電流容量12A、機器側3Pプラグインソケット方式）以外の電源コードを使用される場合は、お客様ご自身の責任において使用していただくことになります。
- 本機のAC IN端子のアース端子は、製品のアースとは接続されておりません。

タイマー録音 / 再生

オーディオタイマーを接続すると、希望の時刻に録音や再生を始めることができます。
（オーディオタイマーや接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。）



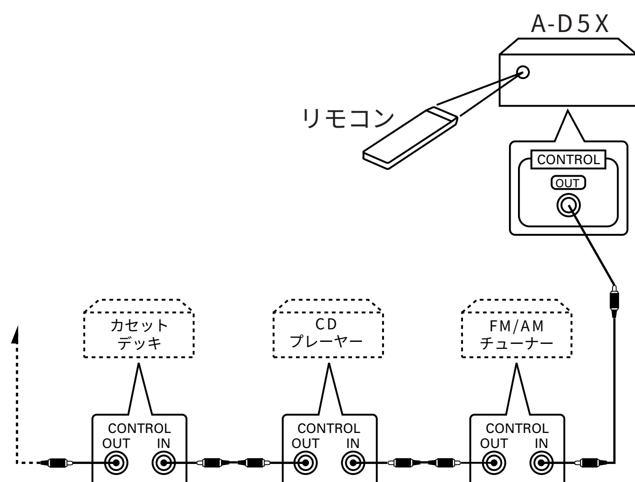
1. オーディオタイマーの電源スイッチを入れる
2. 本機の電源コードをオーディオタイマーの電源コンセントにつなぎ、電源スイッチを入れる
3. 再生する機器、または録音する機器の準備をする
4. オーディオタイマーを希望の時刻に設定する

接続された機器の電源はいったん切れますが、機器の電源スイッチは入れたままにしておいてください。

システムコントロールについて

パイオニアの SR マークの付いた製品（FM/AMチューナー、CDプレーヤー、カセットデッキ等）を市販のミニプラグ付コード（抵抗なし）を使って接続すると、システム全体を本機に付属のリモコンで操作することができます。

1. 本機のリアパネル部にあるコントロール出力端子と操作したい製品のコントロール入力端子を市販のミニプラグ付コードで接続します。
2. 操作したい製品が 2 台以上ある場合は、さらに 1 台目のコントロール出力端子と 2 台目のコントロール入力端子を、同じく市販のミニプラグ付コードで接続します。3 台目以降を接続するときは 2 台目と同様にしてください。

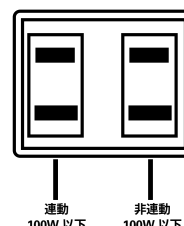


ご注意

- 必ず「OUT」と「IN」を接続してください。
- 接続する製品の順番には、特に決まりはありません。
- 本機の付属リモコンで操作できるのは SR マークの付いたカセットデッキ、CD プレーヤー、チューナーの一部の機能です。
  製品が持っている機能であっても、本機のリモコンで動作させることのできない機能もあります。
  本機のリモコンに操作ボタンのある機能であっても、製品が持っていない機能は動作させることはできません。

電源コンセント(AC OUTLETS)へのつなぎかた

リアパネル部にある電源コンセントはそれぞれ100Wまでの製品を接続することができます。



⚠ 注意

接続する機器の消費電力について

- リアパネルに表示されている消費電力値をこえる電気機器（トースター、ドライヤーなど）は、絶対につながないでください。機器の故障や火災の恐れがあります。
- テレビやモニターは表示されている消費電力値が許容値より少なくても、電源を入れたときに大きな電流が流れて、許容値をこえる場合がありますので、絶対に接続しないでください。機器の故障や火災の恐れがあります。

■ 電源コンセント 連動（スイッチ連動 100W 以下）

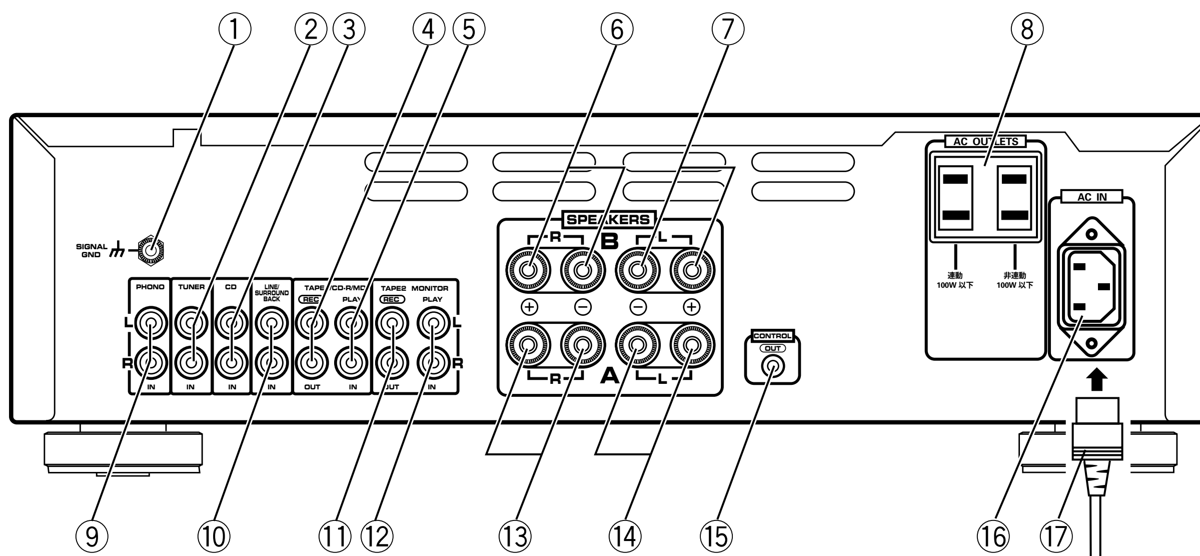
- 本機の電源スイッチの STANDBY/ON 切り換えに連動して、接続した機器の電源を ON-OFF します。
- 接続する機器の消費電力の合計が 100W をこえないように注意してください。

■ 電源コンセント 非連動（スイッチ非連動 100W 以下）

- 本機の電源スイッチの STANDBY/ON 切り換えに関係なく、接続した機器につねに電源を供給します（接続した機器の電源スイッチでON-OFF切り換えをしてください）。
- 接続する機器の消費電力の合計が 100W をこえないように注意してください。

各部の名称と働き

リアパネル部



①PHONO 用 SIGNAL GND 端子

レコードプレーヤーなどを接続した場合の雑音の低減をはかる為のものです。安全アースではありません。

②チューナー端子(TUNER)

③CD 端子

④TAPE1/CD-R/MD REC OUT（出力）端子

⑤TAPE1/CD-R/MD PLAY IN（入力）端子

⑥スピーカー B 端子 (R（右）チャンネル)

⑦スピーカー B端子(L（左）チャンネル)

⑧電源コンセント (AC OUTLETS)

6 ページ参照。

⑨PHONO 端子

⑩LINE/SURROUND BACK端子

⑪TAPE2 MONITOR REC OUT（出力）端子

⑫TAPE2 MONITOR PLAY IN（入力）端子

⑬スピーカー A端子 (R（右）チャンネル)

⑭スピーカー A 端子 (L（左）チャンネル)

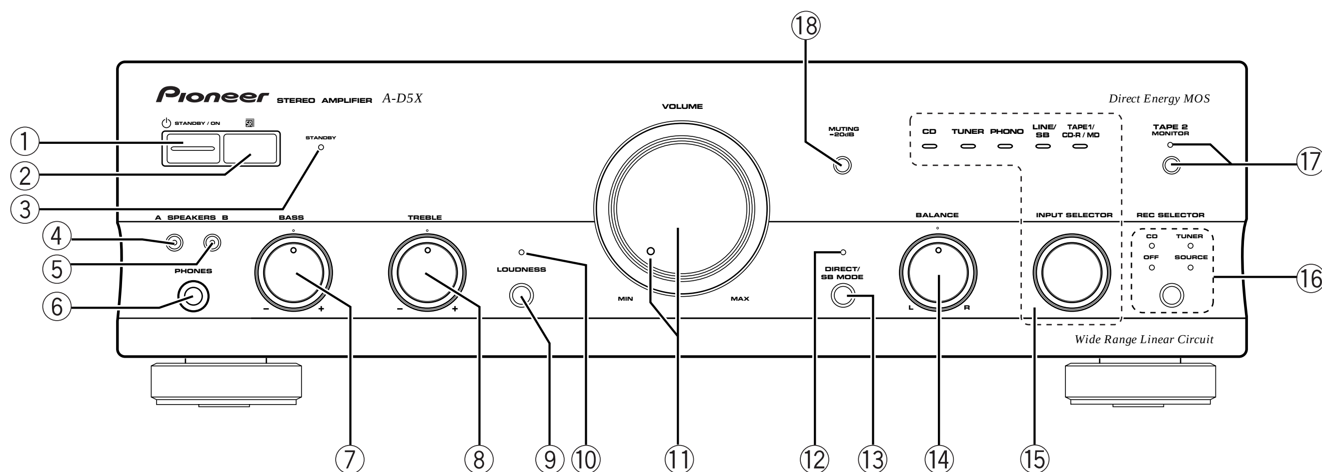
⑮コントロール出力端子

リモコンの信号を出力するための端子です。
SR マークの付いた製品を接続すると、それらの製品も本機のリモコンで動かすことができます。(6 ページ参照)

⑯電源入力端子(AC IN)

⑰電源コード

フロントパネル部



① 電源スイッチ（⏻ STANDBY/ON）

電源のON/OFFを切り換えます。電源スイッチを押すと電源が入り、もう 1 度押すとスタンバイ状態になります。

② リモコン受光部

③ スタンバイインジケーター(STANDBY)

電源がスタンバイ状態のときに、点灯します。

④ スピーカー A(ON/OFF)ボタン (SPEAKERS A)/ インジケーター

スピーカー A 端子につないだスピーカーシステムの ON と OFF を切り換えます。

ON(インジケーター点灯) : スピーカーシステム A とヘッドホン端子から音が出ます。
OFF(インジケーター消灯) : スピーカーシステム A から音は出ません。ヘッドホンを使うときにはこの位置にします。

⑤ スピーカー B(ON/OFF)ボタン (SPEAKERS B)/ インジケーター

スピーカー B 端子につないだスピーカーシステムの ON と OFF を切り換えます。

ON(インジケーター点灯) : スピーカーシステム B とヘッドホン端子から音が出ます。
OFF(インジケーター消灯) : スピーカーシステム B から音は出ません。ヘッドホンを使うときにはこの位置にします。

⑥ ヘッドホン端子(PHONES)

ヘッドホンを使用するときに、プラグを差し込みます。

⑦ 低音調整つまみ(BASS)

低音部の音質を調整します。中央の位置が標準で、右に回すと低音が増加し、左に回すと減少します。

ご注意

ダイレクトが ON のときは働きません。

⑧ 高音調整つまみ(TREBLE)

高音部の音質を調整します。中央の位置が標準で、右に回すと高音が増加し、左に回すと減少します。

ご注意

ダイレクトが ON のときは働きません。

⑨ ラウドネスボタン(LOUDNESS)

小さな音量で聞くときに使います。

ON : **低音と高音が増強され、**小さな音量でも迫力のある再生音をきくことができます。
OFF : 通常はこの位置で使います。

ご注意

ダイレクトが ON のときは働きません。
ボリュームの位置により、低音と高音が増強される変化量は異なります。

⑩ ラウドネスインジケーター

ラウドネスボタンが ON の状態のときに、点灯します。

⑪ ボリュームつまみ(VOLUME) / ボリュームインジケーター

スピーカーA、Bおよびヘッドホンの音量を調整します。ボリュームインジケーターは、電源が入っているとき以下のように表示します。

インジケータ点灯時　：SB モード OFF
インジケータ消灯時　：SB モード ON
インジケータ点滅時　：ミューティング ON

ご注意

音量を上げると、ラウドネスの低音と高音が増強される変化量は小さくなります。

⑫ ダイレクトインジケーター

ON(インジケーター点灯)：低高音部の音質調整回路やバランス調整回路などを通さずに、入力された信号をダイレクトに出力します。入力信号は通常より忠実に演奏されますが、低高音調整、ラウドネスおよびバランスは無効になります。

OFF(インジケーター消灯)：低高音部の音質調整回路やバランス調整回路などを通した入力信号で演奏します。低高音調整、ラウドネスおよびバランスの調整ができます。

⑬ ダイレクト(DIRECT)/SB モード(SB MODE)ボタン

ボタンの押しかたでダイレクトとSBモードの切り換えができます。

軽く押すとダイレクトの ON/OFF が切り換わります。

ON　：ダイレクトインジケーターが点灯します。
OFF　：ダイレクトインジケーターが消灯します。

３秒以上押し続けると SB モードの ON/OFF が切り換わります。

ON　：ボリュームインジケーターが消灯します。
OFF　：ボリュームインジケーターが点灯します。

メモ

SBモードをONにすると、本機のリモコン操作は電源のON/OFFのみ機能し、その他のボタンは機能しなくなります。パイオニア製サラウンドバック出力対応AVアンプと組み合わせると、サラウンドバック用アンプとして使用できます。その場合、入出力コードでAVアンプのバックチャンネル出力と、本機のLINE/SURROUND BACK端子（入力切換スイッチはLINE/SB）を接続してください。ボリュームつまみは中央付近に合わせるか、AV アンプでスピーカー出力レベルの設定時に調節してください（詳しくはAVアンプの取扱説明書をご覧ください）。

⑭ バランスつまみ(BALANCE)

通常は中央の位置にしておきます。ただしスピーカーを設置した位置や環境によって、片方のスピーカーからの音量が大きく聞こえたときなどは、バランスを調整します。右側が大きいときにはＬ（左）へ、左側が大きいときはＲ（右）へ回します。

ご注意

ダイレクトが ON のときは働きません。

⑮ 入力切換スイッチ(INPUT SELECTOR)/インジケーター

再生する機器を選択します。選択された機器のインジケーターが点灯します。

CD　：CD プレーヤーで CD を聞くとき。
TUNER　：チューナーで FM、AM 放送を聞くとき。
PHONO　：レコードプレーヤーでレコードを聞くとき。
LINE/SB　：LINE/SURROUND BACK端子につないだ機器を聞くとき。
TAPE1/CD-R/MD：TAPE1/CD-R/MD端子につないだカセットデッキや MD レコーダーを聞くとき。

⑯ 録音切換スイッチ(REC SELECTOR) / インジケーター

録音する機器を選択するときに使用します。選択された機器は、TAPE1/CD-R/MD 端子に出力されます。選択するときは、録音切換スイッチを押して、録音したい機器のインジケーターを点灯させてください。TUNERまたはCDの位置にすると、入力切換スイッチやテープ2モニタースイッチに関係なく、録音切換スイッチで選んだ機器の録音となります。

CD　：CD 端子の機器を録音するとき。
TUNER　：TUNER 端子の機器を録音するとき。
SOURCE　：入力切換スイッチで選択した機器を録音するとき。
OFF　：この位置では TAPE1/CD-R/MD の REC 端子には何も出力されません。

⑰ テープ 2 モニターボタン(TAPE 2 MONITOR)/ インジケーター

ON(インジケーター点灯)：TAPE2 MONITOR 端子につないだカセットデッキの音声信号を再生します。

OFF(インジケーター消灯)：入力切換スイッチで選択された機器の音声信号を再生します。

⑱ ミューティングボタン(MUTING)

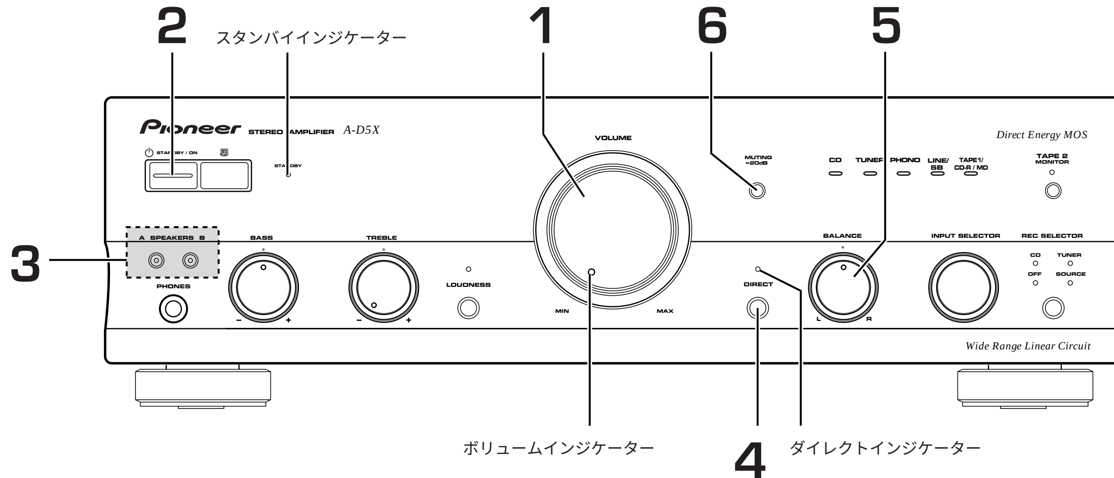
ON　：ボリュームインジケーターが点滅します。一時的に音量を小さくしたいときに押します。
OFF　：元の音量に戻ります。

ご注意

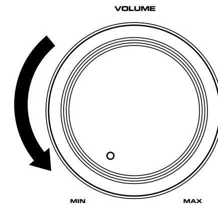
本機はダイレクトを ON、ボリュームつまみを 10 時付近に合わせた状態でミューティングボタンを押すと、音量が約1/10(-20dB)になるように設定されています。それ以外の状態ではミューティング量は異なります。

操作のしかた

準備操作

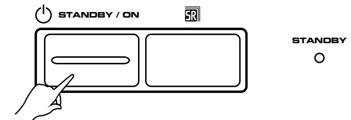


1 ボリュームつまみを MIN の位置にする



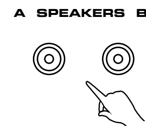
2 電源スイッチを ON にする

スタンバイインジケーターが消え、ボリューム
インジケーターが点灯します。



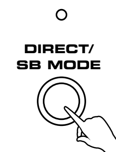
3 使用するスピーカーの(ON/OFF)ボタンを ON にする

使用するスピーカーのインジケーターが点灯します。



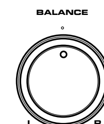
4 ダイレクトを OFF にする

ダイレクトインジケーターが消えます。



5 バランスつまみを中央の位置に合わせる

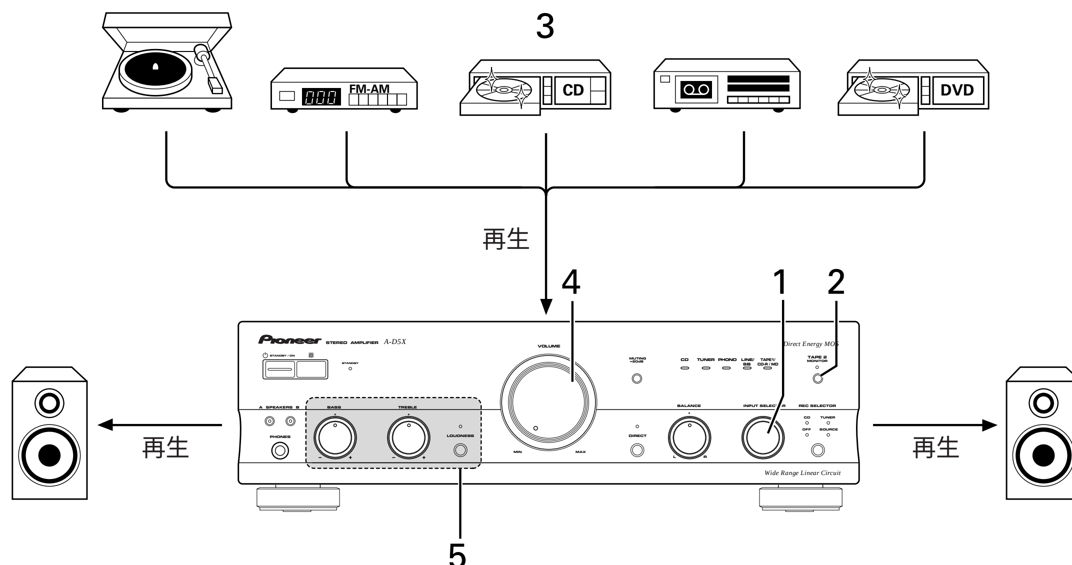
使用するスピーカーの設置位置や部屋の環境によって、スピーカーからの音量の大きさが、L（左）側と R（右）側で違って聞こえることがあります。このような場合は、バランスつまみを調整します。右側が大きいときには L（左）側へ、左側が大きいときは R（右）側へ回します。



6 ミューティングボタンを OFF にする



再生手順



1 再生する機器に合わせて、入力切換スイッチを切り換える

コンパクトディスクをきくとき	：**[CD]**にする。
FM、AM 放送をきくとき	：**[TUNER]**にする。
レコードをきくとき	：**[PHONO]**にする。
LINE 端子に接続した機器をきくとき	：**[LINE/SB]**にする。
TAPE1/CD-R/MD 端子に接続したカセットデッキ等をきくとき	：**[TAPE1/CD-R/MD]** にする。

ご注意：[PHONO]を選んだときは、5 秒間のミューティングがかかります。

2 テープ 2 モニターボタンを OFF にする

TAPE2 MONITOR 端子に接続したカセットデッキなどを聞くときは、テープ 2 モニターボタンをONにします。この場合テープ2モニターインジケーターは点灯します。

グラフィックイコライザーを使った再生

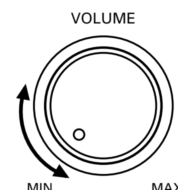
TAPE2 MONITOR端子にグラフィックイコライザーをつなぐと、より細かな音質のコントロールができます。

ご注意

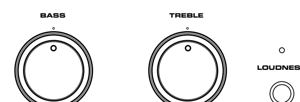
TAPE2 MONITOR端子にグラフィックイコライザーなどのオーディオアダプターをつないでご使用になるときは、必ずオーディオアダプターの電源もONにしてください。オーディオアダプターによってはOFF のときはアンプ側から音が出なくなるものがあります。

3 再生する機器を操作して、再生を始める

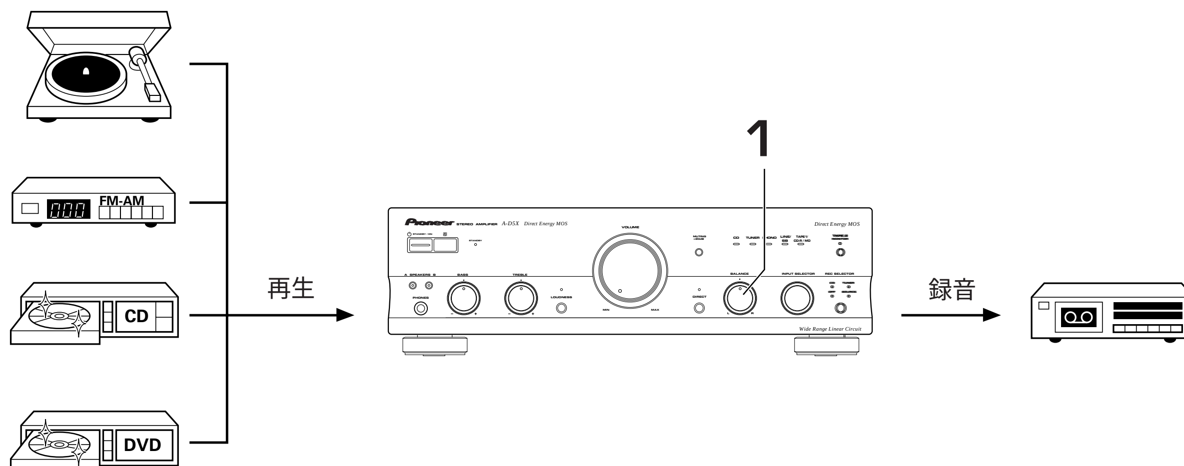
4 ボリュームつまみで音量を調整する



5 高音、低音調整つまみ、ラウドネスボタンで好みの音質に調整する



録音するとき



TAPE1/CD-R/MD端子に接続したカセットデッキ、MD レコーダーなどで録音するとき

1. 録音切換スイッチで録音する機器を選ぶ

- 録音切換スイッチが[SOURCE]の位置のときは、入力切換スイッチで選択されている機器の信号を録音します。
- PHONO 端子、LINE/SURROUND BACK 端子に接続された機器を録音するときは、録音切換スイッチを[SOURCE]にして、入力切換スイッチを録音する機器の位置([PHONO]または[LINE/SB])にしてください。
- 録音切り換えスイッチが[OFF]の位置では録音することができません。

ご注意

[CD]、[TUNER]の位置では、入力切換スイッチやテープ 2 モニターボタンの ON-OFF に関係なく、それぞれ選択した機器の録音ができます。

2. 再生機器とカセットデッキ、MD 等を操作して録音を始める

< モニターするとき >

録音切換スイッチが[CD]、[TUNER]の位置のときのみ可能です。

① 録音切換スイッチを[CD]または[TUNER]に合わせる。
②入力切換スイッチを[TAPE1/CD-R/MD]に合わせる。
③ テープ 2 モニターボタンを OFF にする。

TAPE2 MONITOR 端子に接続したカセットデッキで録音するとき

1. 入力切換スイッチで再生する機器を選ぶ

2. 再生機器とカセットデッキを操作して録音を始める

< モニターするとき >

どの再生機器からの録音でも可能です。

① 入力切換スイッチで再生する機器を選ぶ。
② テープ 2 モニターボタンを ON にする。



テープ録音（コピー）中のモニターについて

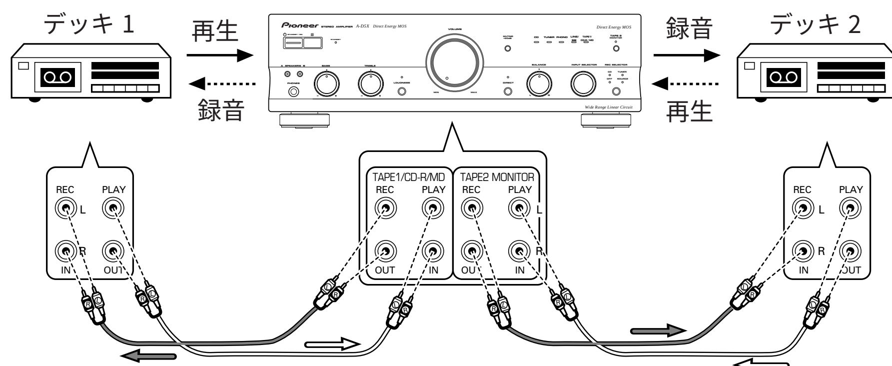
録音（コピー）中に音声信号の内容、録音レベルや音質を監視することをモニターといいます。TAPE2 MONITOR 端子に 3 ヘッド式のカセットデッキを接続し、テープ 2 モニターを ON にすると、テープ録音（コピー）中に、録音された音を聞くことができます。

テープをコピーするとき

カセットデッキを 2 台ご使用になると、テープの音を別のテープに録音することができます。

使用例：

- 同じ内容のテープをもう 1 本作る。
- FM 放送など録音したテープを、コマーシャルなどの不要な所をカットして、好みの音楽だけを別のテープへ録音する。



TAPE1/CD-R/MD 端子に接続したカセットデッキ(デッキ1)からTAPE2 MONITOR端子に接続したカセットデッキ(デッキ 2)にコピーするとき

1. デッキ1に再生するテープ(録音済テープ)、デッキ 2 に録音用テープをセットする

2. 入力切換スイッチを TAPE1/CD-R/MD に合わせる

3. カセットデッキを操作して、コピーを始める

デッキ 2 を録音状態にし、デッキ 1 の再生を開始します。

4. モニターするときは、テープ 2 モニターボタンを ON にする

TAPE2 MONITOR 端子に接続したカセットデッキ(デッキ 2)から TAPE1/CD-R/MD 端子に接続したカセットデッキ(デッキ 1)にコピーするとき

1. デッキ2に再生用のテープ(録音済テープ)、デッキ 1 に録音用テープをセットする

2. 入力切換スイッチを TAPE1/CD-R/MD 以外に合わせる

3. 録音切換スイッチをSOURCEにあわせる

4. テープ 2 モニターボタンを ON にする

5. カセットデッキを操作して、コピーを始める

デッキ 1 を録音状態にし、デッキ 2 を再生させます。

ご注意

- コマーシャルなど不要な部分をカットするには、コピー中に録音している側のデッキを一時停止します。
- デッキ 2 からデッキ 1 にコピーする場合、モニターはできません。
  また、コピー中にテープ 2 モニターボタンを動かすと録音の音が途切れますので、コピー中にはテープ 2 モニターボタンは動かさないでください。
- 録音中に入力切換スイッチに触れないでください。入力切換スイッチが動くと録音の音が途切れます。

リモコン操作

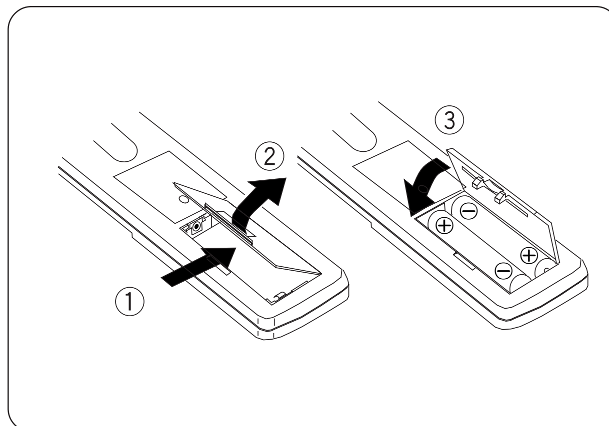
リモコンの準備

1. **リモコンの裏側の電池ケースのふたを開ける**

ふたを ① の方向に押しながら矢印 ② の方向に引き出します。

2. **付属の単 3 形乾電池(AA/R6P)2 本を、電池ケース内の表示にしたがって入れる**

3. **電池ケースのふたを閉める**



 **注意**

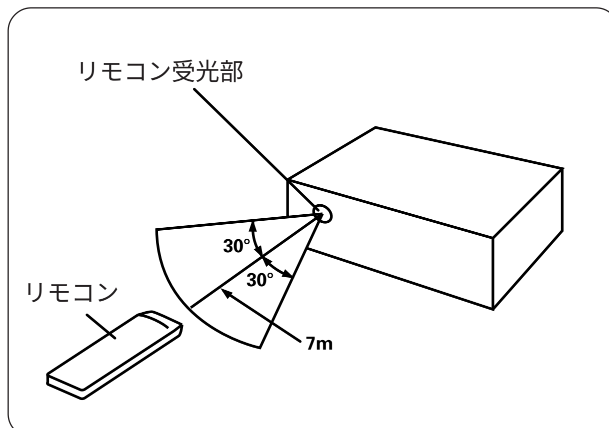
乾電池を誤って使用すると液漏れや破裂するなどの危険があります。次の点についてご注意ください。（電池の注意事項もよく見てください。）

- 乾電池のプラス ⊕ とマイナス ⊖ の向きを電池ケースの表示通りに正しく入れてください。
- 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は同じ形状でも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 長い間（1 カ月以上）使用しないときは電池の液漏れを防ぐために電池を取り出してください。もし、液漏れを起こしたしときは、ケース内についた液をよくふきとってから新しい電池を入れてください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。

リモコンの操作可能範囲

リモコンの操作可能範囲は、リモコン受光部との距離が約 7m、角度が左右約 30° までです。

- リモコン受光部との間に障害物があったり、受光部との角度が悪いとリモコン操作ができない場合があります。
- 赤外線を発射する機器の近くで使用したり、赤外線を利用した他のリモコン装置を使用したりすると、誤動作することがあります。逆に赤外線によってコントロールされる他の機器を使用時にこのリモコンを操作すると、その機器を誤動作させることがあります。
- リモコンの操作可能範囲が極端に狭くなってきたら電池を交換してください。
- 直射日光や蛍光灯の強い光がリモコン受光部に直接当たると、リモコン操作できないことがあります。そのようなときは、設置場所を変えたり、蛍光灯を離してください。



リモコンのいろいろな使いかた

1 A-D5X を操作する。

⇨ 下図をご覧ください。

2 パイオニアの SR マークの付いた製品を操作する。

SR マークの付いたカセットデッキ、CD プレーヤー、チューナー、などのパイオニア製品を操作することができます。

⇨16 ページをご覧ください。

3 システムコントロールコードをつないで SR マークの付いた製品を操作する。

⇨ 6 ページをご覧ください。

2 と 3 で使用するときのご注意

このリモコンで操作できるのは、SR マークの付いたカセットデッキ、CD プレーヤー、チューナーなどの一部の機能です。
機器が持っている機能であっても、このリモコンで動作させることのできない機能もあります。
このリモコンに操作ボタンのある機能であっても､製品が持っていない機能は動作させることはできません。
接続したそれぞれの機器のリモコンを本機に向けて操作すると、そのリモコンの機器が動作します。

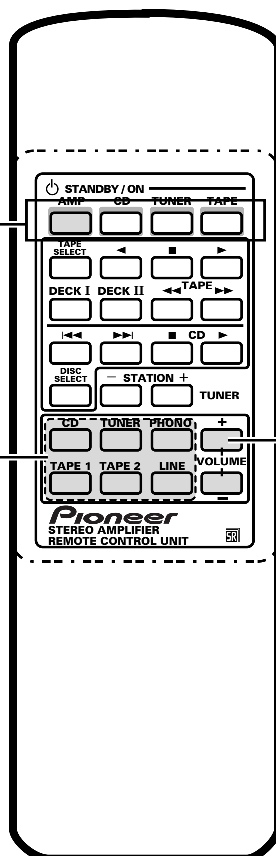
A-D5X を操作するとき

電源(⏻ STANDBY/ON) ボタン

アンプ、CD、チューナー、カセットデッキの電源のON/OFFを切り換えます。

入力切換ボタン

CD、TUNER、PHONO、TAPE1/CD-R/MD、TAPE2、LINE の入力を選びます。



ボリュームボタン (VOLUME +、−)

音量を調節します。

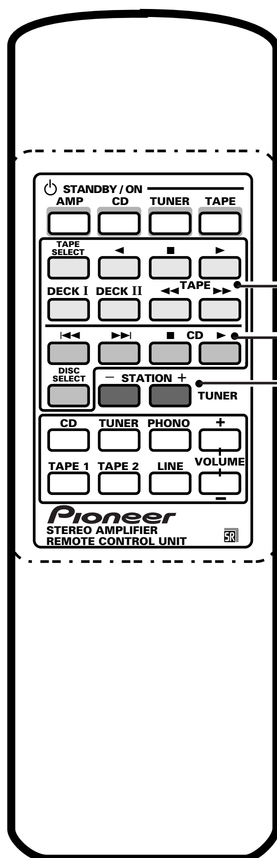


本機のSBモードをONにしている場合は、入力切換ボタンとボリュームボタンは機能しません。

本機以外のパイオニアの SR マークの付いた製品を操作するとき

本機以外のパイオニア製品の操作

＊ お手持ちの機器によっては機能しないボタンもありますので、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。



● カセットデッキの操作

- **テープセレクトボタン(TAPE SELECT):**
  マルチカセットチェンジャーのカセット番号を選びます。
- **プレイボタン(◄/►):**
  矢印の方向に再生を始めます。
- **ストップボタン(■):**
  テープ走行を停止します。
- **デッキ I ボタン(DECK I):**
  DECK Iのカセットデッキを操作するときは､このボタンを押してから操作します。
- **デッキ II ボタン(DECK II):**
  DECK II のカセットデッキを操作するときは、このボタンを押してから操作します。
- **早送りボタン(◄◄/►►):**
  テープを矢印の方向へ早送りします。

● CD プレーヤーの操作

- **トラックサーチボタン(|◄◄):**
  演奏中のトラック（曲）の始めに戻ります（トラックサーチ)。
- **トラックサーチボタン(►►|):**
  演奏中の次のトラック（曲）の始めに進みます（トラックサーチ)。
- **ストップボタン(■):**
  再生を停止します。
- **プレイボタン(►):**
  再生を始めます。
- **ディスクセレクトボタン(DISC SELECT):**
  マガジン式、ファイルタイプの CD プレーヤーのディスクを選びます。

● チューナーの操作

- **ステーションー、＋ボタン(STATION ー、＋):**
  あらかじめ登録された放送局を呼び出します。

故障？ちょっと調べてください

故障かな？…と思ったら、下記を調べてみてください。意外なミスが故障と思われています。また、本機以外の原因も考えられます。ご使用の他の機器および同時に使用している電気機器も合わせてお調べください。以下の項目を調べても直らない場合は、修理を依頼してください（18 ページをご覧ください）。

症　　状	考えられる原因	処　　置
電源が入らない。	● 電源プラグがコンセントから抜けている。 ● 他の機器（タイマーなど）のコンセントに電源プラグをつないだ場合で、他の機器からの電源が切れている。 ● 電源プラグが、電源入力端子(AC IN)から抜けている。	● 電源プラグを正しく差し込む。 ● 他の機器の電源を入れる。 ● 電源プラグを正しく差し込む。
音がでない。	● 接続コードが端子からはずれている。または、間違えて接続されている。 ● 端子や接続コードのピンプラグがよごれている。 ● 入力切換スイッチの位置が再生している機器と合っていない。 ● 他の機器の操作を間違えている。 ● スピーカーボタンが OFF になっている。 ● ミューティングボタンが ON になっている（ボリュームインジケーター点滅）。 ● テープ 2 モニターボタンが ON になっている（TAPE2 以外の機器を演奏する場合）。	● 確実に接続する。(4、5 ページを参照) ● 端子やプラグのよごれを拭きとる。 ● スイッチを正しく切り換える。(PHONO、TUNER、CD、LINE/SB、TAPE1/CD-R/MD、TAPE2 MONITOR) ● 他の機器の取扱説明書を参照する。 ● スピーカー(AまたはB)ボタンをONにする。 ● ボタンをOFFにする（ボリュームインジケーター点灯または消灯）。 ● テープ 2 モニターボタンを OFF にする。
片方のスピーカーから音がでない。	● 接続コードやスピーカーコードの片方がはずれている。 ● バランスつまみが、右または左になっている。	● 確実に接続する。（4、5 ページ参照） ● 中央にあわせる。
カセットデッキやCD-R、MD に録音ができない。	● 録音切換スイッチの位置を間違えている。 ● 接続を間違えている。 ● カセットデッキや CD-R、MD の操作を間違えている。	● 正しい位置に切り換える。（12 ページ ”録音するとき ” を参照） ● 正しく接続しなおす。（4 ページ参照） ● カセットデッキや CD-R、MD の取扱説明書を参照する。
テープコピーができない。	● 入力切換スイッチ、又は録音切換スイッチの位置を間違えている。 ● カセットデッキの操作を間違えている。	● 正しい位置に切り換える（13 ページ ”テープをコピーするとき ” を参照）。 ● カセットデッキの取扱説明書を参照する。
リモコンがきかない。（別売り機器が操作できない）	● リモコンに電池が入っていない。または電池が消耗している。電池の入れ方を間違えている。 ● 本機と距離がありすぎる、または角度が悪い。 ● 本機との間に障害物がある。 ● 別売り機器のシステムコントロールコードが接続されていない。 ● 蛍光灯がリモコン受光部の近くにある。	● 電池を正しく入れる。または新しい電池に変える。 ● リモコンは本機との距離が約 7 m 以内、前面パネルとの角度が左右にそれぞれ 30° 以内で操作可能です。 ● リモコンの操作場所を変えるか、障害物をとり除いて操作する。 ● 正しく接続する。（6 ページ参照） ● 蛍光灯をリモコン受光部から離す。

静電気等、外部からの影響により本機が正常に動作しない場合があります。このような時は電源スイッチをON/OFFするか、電源コードを一度抜いて再度差し込むことにより、正常に動作します。

保証とアフターサービス

保証書（別添）
保証書は必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取り、内容をよく読んで大切に保管してください。

保証期間は購入日から1年間です。

補修用性能部品の最低保有期間
当社はこの製品の補修用性能部品を製造打ち切り後、最低8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談
お買い上げの販売店または、お近くのパイオニアサービスステーションをご利用ください。所在地、電話番号は別添の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

修理を依頼されるとき
P.17に従って調べていただき、なお異常のあるときは、ご使用を中止し必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店、またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。

連絡していただきたい内容
- ご住所　「付近の目印も合わせてお知らせください」
- お名前
- 電話番号
- 製品名　ステレオプリメインアンプ
- 型番　A-D5X
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容　「できるだけ具体的に」
- 訪問ご希望日
- ご自宅までの道順と目標（建物・公園など）

保証期間中は
修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。

保証期間が過ぎているときは
修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

製品のお手入れについて
通常は、柔らかい布で空拭きしてください。汚れがひどい場合は5～6倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞った後、汚れを拭きとり、その後乾いた布で拭いてください。アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると印刷、塗料などがはげることがありますのでご注意ください。また、ゴムやビニール製品を長時間触れさせることも、キャビネットを傷めますので避けてください。化学ぞうきんなどをお使いの場合は、化学ぞうきんなどに添付の注意事項をよくお読みください。お手入れの際は差し込みプラグをコンセントから抜いて行ってください。



音のエチケット
楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所へのおもいやりを十分にいたしましょう。ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には特に気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉めたりするのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

仕様

アンプ部

実用最大出力 .... 150W+150W(EIAJ、4Ω)
定格出力＊（両チャンネル駆動)
110W+110W(歪率 0.2%、20Hz～20kHz、4Ω)
60W+60W(歪率 0.05%、20Hz～20kHz、8Ω)
入力端子（感度／入力インピーダンス）
PHONO (MM) 2.8mV/50kΩ
CD、TUNER、LINE/SB 他 200mV/50kΩ
PHONO 最大許容入力
PHONO MM（高調波歪率 0.02%、1kHz).... 150mV
出力端子（レベル／出力インピーダンス）
TAPE1/CD-R/MD REC、TAPE2 MONITOR REC
.... 200mV/1kΩ
周波数特性（ダイレクトスイッチ ON）
PHONO(MM)...................... 20Hz～20kH ±0.3dB
CD、TUNER、LINE/SB 他 ..... 5Hz～100kHz、$^{+0}_{-3}$ dB
トーンコントロール
BASS ....±8dB(100Hz)
TREBLE .... ±8dB(10kHz)
ラウドネスコントロール(VOLUME －30dB 位置)
.... 100Hz/10kHz(+5dB/+3dB)
ミューティング（DIRECT:ON、VOLUME －30dB 位置）
.... －20dB
SN比（IHF A ネットワーク、ショートサーキット、ダイレクトスイッチ ON)
PHONO(MM)(5mV Input) 88dB
CD、TUNER、LINE/SB 他....................... 108dB
スピーカー負荷インピーダンス(A、B) .... 4～16Ω
(A+B) .... 8～32Ω

電源部・その他

電源 AC100V 50/60Hz
消費電力（電気用品取締法) 160W
スタンバイ時消費電力 1W
AC アウトレット .... 電源スイッチ連動:1(100W 以下)
電源スイッチ非連動:1(100W 以下)
外形寸法（幅 x 高さ x 奥行) .... 420 x 128 x 335mm
本体質量 6.7kg

付属品

リモコン 1
単 3 乾電池(AA/R6P) 2
電源コード（電流容量 12A) 1
取扱説明書 1
保証書 1
安全上のご注意 1
ご相談窓口・修理窓口のご案内 1

＊ オーディオスペクトラムアナライザーによる測定。

● 上記の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

PRINTED WITH SOY INK
この取扱説明書の印刷には植物性大豆油インキを使用しています。

お客様ご相談窓口(全国共通フリーフォン)

カスタマーサポートセンター

● 家庭用ｵｰﾃﾞｨｵ／ﾋﾞｼﾞｭｱﾙ製品のお問い合わせ窓口　**0070-800-8181-22**

● カタログのご請求窓口　**0070-800-8181-33**

＜ご注意＞ ● ＰＨＳ、携帯電話、自動車電話、列車公衆電話、船舶電話、ピンク電話および海外からの国際電話ではご利用になれません。予めご了承ください。

● 修理に関しては別添の『ご相談窓口・修理窓口のご案内』をご覧ください。

※ホームページでのカタログ請求とメールサービス登録のご案内

http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg.html

愛情点検



長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。こんな症状はありませんか？

- **電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。**
- **電源コードにさけめやひび割れがある。**
- **電気が入ったり切れたりする。**
- **本体から異常な音、熱、臭いがする。**



すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、故障や事故防止のため電気店または当社サービスステーションに点検（有料）をご依頼ください。

お客様メモ

● おぼえのため記入されますと便利です。

ご購入店名	住　所 電話番号	お近くの ご相談窓口	住　所 電話番号
ご購入年月日	年　月　日	型　番	A-D5X

この取扱説明書は再生紙を使用しています。

パイオニア株式会社 〒153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

<TKWZF/00I00001>　<ARA7124-A>